

中国古典文学大系 41

平凡社

聊齋志異 下

蒲松齡作 增田渉・松枝茂夫・常石茂 訳

訳者紹介

^{ますだ わたる}
増田 渉 明治36年島根県生。東京大学文学部支那文学
科卒。現職 関西大学教授。専攻 中国文学。主要訳著書
『鲁迅の印象』(講談社)『中国文学史研究』(岩波書店)
『中国小説史』(岩波書店)『鲁迅選集』(岩波書店)『苦社会』
(平凡社) 現住所 大阪府泉北郡忠岡町忠岡194

^{まつえだしげお}
松枝茂夫 明治38年佐賀県生。東京大学文学部支那文学
科卒。現職 早稲田大学教授。専攻 中国文学。主要訳著
書『周作人随筆集』(改造社)『紅樓夢』(岩波書店)曹禹
『日の出』(平凡社)『中国笑話選』(平凡社) 現住所 東京
都杉並区本天沼2-37-21

^{つねいし しげる}
常石 茂 本名 柳沢三郎 大正4年大阪府生。東京大
学文学部中国文学科卒。専攻 中国文学。現職 成蹊高校
教諭、同大学講師。著訳書『新論語物語』『新春秋左氏伝
物語』(河出書房)『戦国策』(平凡社)『韓非子』(角川書
店) 現住所 藤沢市高倉561

中国古典文学大系 全60巻

群書志異(下)

第41巻

昭和46年4月25日 初版第1刷発行
昭和48年1月20日 初版第2刷発行

定価 1800 円

訳者との申
合せにより
校印を省略
いたします

訳者代表

常 石 茂

東京都千代田区四番町4番地

発行者

下 中 邦 彦

発行所

郵便番号 102
東京都千代田区
四番町4番地
振替・東京29639

株式
会社

平 凡 社

落丁・乱丁本はお取替いたします
© 株式会社 平凡社 1973

印刷 東洋印刷株式会社
製本 株式会社石津製本所

0397-312410-7600

例 言

一、本書の底本には、張友鶴輯校『會校會注會評本 聊齋志異』(二卷 中華書局版)を用いました。

これに伴い、各訳者の旧稿は、すべて底本と照合して各自が訂正しました。

一、各篇には、便宜上、通し番号と訳題とを添えました。

一、多くの篇末にみえる「異史氏曰く」云々は、蒲松齡自身の評語であります。

一、必要事項については、各篇に後注を付しましたが、簡単なものは本文中に()でくくって挿入しました。

なお、例えば(50注③)とあれば、通し番号50の篇の後注参照、という意味であります。

一、度量衡・科挙・風習等に関する語の中に、原語のまま使用したものがありますので、上巻の巻末に「原語略解」を付しました。

一、訳者の注釈中に、「呂註」とあるのは呂澂^{りょせい}恩註、「何註」とあるのは何垠^{かぎん}註のことです。これらについては上巻の巻末の「解説」に誌しました。

一、後注に、『戦国策』の齊策へ123などとある番号は、東洋文庫(平凡社版)ならびに本大系所収の拙訳『戦国策』の通し番号であります。

一、訳者の署名のない篇は堂石が訳出したものであります。

目次

卷 六(承前)

236	離散奇談(乱離二則).....	三
237	蛇 寺(象蛇).....	四
238	雷 公(雷公).....	五
239	縁結び観音(菱角).....	六
240	餓鬼の生まれ変わり(餓鬼).....	八
241	虚肚鬼王(考幣司).....	一〇
242	左蘿石昇天(閻羅).....	一三
243	大 男(大人).....	一三
244	虎になって仇討ち(向呆).....	一四
245	首を斬られた下男(董公子).....	一六
246	小狐退治(周三).....	一七
247	縁なき衆生(鶴異).....	一八
248	義士の墓(轟政).....	二三
249	笑 い(冷生).....	二三
250	狐のいたずら(狐懲淫).....	二四

卷 七

256	神様になる(羅祖).....	二五
257	劉という男(劉姓).....	二五
258	薄命の徳(邵女).....	二七
259	袖中の天地(鞏仙).....	二七
260	兄と弟と嫂と(二商).....	二八
261	銀をとる秀才(沂水秀才).....	二九
262	悪役人と幽霊芸者(梅女).....	三〇
263	人梯子の道(郭秀才).....	三〇
264	笑う死僧(死僧).....	三〇
265	鸚鵡の許婚(阿英).....	三二
266	盆栽の不思議(橘樹).....	三七
267	空に出た字(赤字).....	三七
268	他郷にいた亡父(牛成章).....	三七

251	山の蜃気楼(山市).....	二六
252	荒くれ女房(江城).....	二六
253	尼のまじない(孫生).....	二八
254	禁酒したすっぽん(八大王).....	二八
255	戯れの首つり(戯縫).....	二八

269	鋤をもらって(青娥).....	七
270	鏡占い(鏡聴).....	六
271	牛の黄痘(牛痘).....	八七
272	処女神さまの恋(金姑夫).....	六
273	夢のお告げ(梓潼令).....	九
274	つばき怪(鬼津).....	九
275	仙人島(仙人島).....	九
276	閻魔が頓死(閻羅薨).....	九
277	狂道人(顛道人).....	一〇〇
278	怨みへの報いかた(胡四娘).....	一〇二
279	吝ん坊の運命(僧術).....	一〇五
280	天 寿(禄数).....	一〇六
281	犁牛の子(柳生).....	一〇六
282	無茶な裁判(冤獄).....	一〇九
283	幽鬼の酒令(鬼令).....	一一三
284	甄皇后の身がわり(甄后).....	一一三
285	幽霊と琴(宦娘).....	一二七
286	小間物屋の娘(阿彌).....	一二三
287	谷底の小人(楊疤眼).....	一二六
288	人間改造(小翠).....	一二六
289	和尚大尽(金和尚).....	一三三
290	竜と蜘蛛との関係(竜戯蛛).....	一三五

卷 八

291	盗人の見た怪(商婦).....	一五
292	閻魔のお返し(閻羅宴).....	一七
293	幽鬼の主人(役鬼).....	一七
294	継母の子弟教育(細柳).....	一六
295	怪 馬(画馬).....	一五
296	詐 欺(局詐).....	一四
297	浅慮の報い(放蝶).....	一四
298	稚児が子を生む(男生子).....	一四
299	予 言(鍾生).....	一五
300	幽霊妻の悲しみ(鬼妻).....	一五
301	鉄 拳(黄將軍).....	一五
302	恥なきもの(三朝元老).....	一五
303	医という術(医術).....	一五
304	つぶしたしらみ(蔵蝨).....	一五
305	狼の夢(夢狼).....	一五
306	夜光怪(夜明).....	一六
307	夏の雪(夏雪).....	一六
308	男になる(化男).....	一六

330	指ほどの棺桶(小棺)……………	二八
329	鹿の藥草(鹿卿草)……………	二八
328	人妻殺害事件(詩讞)……………	二五
327	義俠主従(崔猛)……………	二〇
326	庫 腹(采薇翁)……………	一九
325	指を截つて履に適わせた男(姚安)……………	二七
324	福運の数(錢卜巫)……………	二五
323	じゃじゃ馬騒動(呂無病)……………	一九
322	鉄面皮な話(醜狐)……………	一九
321	巧拙と運命との機微(司文郎)……………	一九
320	女仙跳梁(霍女)……………	一三
319	泥棒奇譚(某乙)……………	一八
318	道理がひっこむ話(盗戸)……………	一九
317	幽鬼の友(褚生)……………	一五
316	鞠 葉 如(鞠葉如)……………	一五
315	仙妻と狐妾と(嫦娥)……………	一六
314	運鈍の徳(周克昌)……………	一六
313	宿 怨(紫花和尚)……………	一六
312	首と首のない人体と(負尸)……………	一六
311	象にたのまれる(象)……………	一六
310	夫婦 鳥(鴻)……………	一六
309	鶴の返報(禽俠)……………	一六

卷 九

348	勘 違 い(孫必振)……………	二五
347	単父の宰(単父宰)……………	二五
346	高雅な幽鬼と哀れな女中(愛奴)……………	二五
345	前身の歌曲(張貢士)……………	二六
344	誤殺の厄(遼陽軍)……………	二六
343	氣が変わる(佟客)……………	二六
342	鏡の中の女(鳳仙)……………	二六
341	人間 鼠(激俗)……………	二六
340	貧賤の強み(狂生)……………	二九
339	張桓侯の徳(于去惡)……………	二四
338	循吏の鑑(邵臨淄)……………	二三
337	孝行の徳(陳錫九)……………	二七
336	まぶたの御殿(顧生)……………	三五
335	前世の妻子に恵む(邵士梅)……………	三四
334	前世に縁かれて(蔣太史)……………	三四
333	陸という書記(陸押官)……………	三三
332	紙馬に乗る老僧(李生)……………	三一
331	色を慎んだ功德(邢子儀)……………	二九

349	朝飯前の死刑の経験(邑人).....	二五
350	元 宝(元宝).....	二五
351	硯 の 石(研石).....	二五
352	武夷山の奇異(武夷).....	二五
353	猫の知略(大風).....	二五
354	施しの応報(張不量).....	二五
355	禽獣の威勢(牧豎).....	二六
356	おもわず出た技(富翁).....	二六
357	塞外統治の術(王司馬).....	二六
358	死 神(岳神).....	二六
359	狐 観 音(小梅).....	二六
360	貪 る(薬僧).....	二六
361	于中丞政談(于中丞).....	二六
362	城隍神の配下(皂隸).....	二六
363	艶姿をみせた仙女(續女).....	二七
364	紅毛人の毛氈(紅毛氈).....	二七
365	腸手繰り(抽腸).....	二七
366	空を飛ぶ女(張鴻漸).....	二七
367	うっかり死(大医).....	二七
368	飛び去った牛(牛飛).....	二七
369	受験生の心理(王子安).....	二七
370	嘘をつく才(刁姓).....	二八
371	女 丈 夫(農婦).....	二八
372	狐に墮する(金陵乙).....	二八
373	珍な裁き(郭安).....	二八
374	費公政談(折獄).....	二八
375	義 犬(義犬).....	二九
376	俗 根(楊大洪).....	二九
377	洞窟の怪(查牙山洞).....	二九
378	安 期 島(安期島).....	二九
379	奇怪な土地柄(沅俗).....	二九
380	姫君降嫁(雲蘿公主).....	二九
381	鳥耳道士(鳥語).....	二九
382	天上の御殿(天宮).....	二九
383	知己に報いた烈婦(喬女).....	二九
384	めずらしい貝(蛤).....	二九
385	金主の婦人(劉夫人).....	二九
386	怪しの部屋(陵泉狐).....	二九
387	路銀の工面(王貨郎).....	二八
388	竜 と 蛆(罷竜).....	二八

410	秘法盗み(真生).....	三九
409	仙 罰(布商).....	三三
408	囊 詰め(彭二擲).....	三三
407	乩 神(何仙).....	三三
406	閼帝使い(牛同人).....	三四
405	神 女(神女).....	三五
404	兄弟の愛情(湘裙).....	三一
403	三世の宿怨(三生).....	三七
402	娘 吝み(長亭).....	三九
401	暗黒地獄に挑む(席方平).....	四〇
400	蠹魚の妹(素秋).....	四〇
399	仙界往来譚(賈奉雉).....	三七
398	名 裁判(臙脂).....	三三
397	疑惑の禍(阿纖).....	三七
396	保たれた璞玉(瑞雲).....	三七
395	いすかの嘴(仇大娘).....	三七
394	智 の 愚(曹操冢).....	三六
393	生き地獄(竜飛相公).....	三六
392	嫁と姑のあいだ(珊瑚).....	三九
391	五 通 一(五通).....	三六
390	五 通 二(又).....	三六
389	にわか泥棒(申氏).....	四三
411	良人に愛させる法(恒娘).....	四〇六
412	牡丹の精(葛巾).....	四〇九
卷 十 一		
413	緑の定数(馮木匠).....	四一六
414	菊の姉弟(黄英).....	四一七
415	書物氣狂い(書癡).....	四一三
416	靈験は人の心次第(齊天大聖).....	四一六
417	蛙 の 娘(青蛙神).....	四三〇
418	蛙の神の居催促(又).....	四三三
419	骰子についた霊(任秀).....	四三三
420	竜宮の恋人(晚霞).....	四三七
421	詩吟の縁(白秋練).....	四四一
422	無名の神(王者).....	四四七
423	因果応報(某甲).....	四四九
424	衢州の三怪(衢州三怪).....	四四九
425	二階家をこわす(拆楼人).....	四五〇
426	大きな蝎(大蝎).....	四五〇
427	二人 尼(陳雲棲).....	四五〇
428	幽鬼にからかわれた男(司札吏).....	四五八

429	蛭 蛭 (蛭蛭)	四六
430	欲 呆 け (司訓)	四六
431	黒 奴 (黒鬼)	四六〇
432	洞庭君の侍女 (織成)	四六〇
433	鳥の黒衣 (竹青)	四六四
434	嫉妬の応報 (段氏)	四六八
435	べにざらの亭 (狐女)	四七〇
436	賢 婦 人 (張氏婦)	四七一
437	魚の大王 (于子游)	四七三
438	好き好き (男妾)	四七三
439	神童の秘密 (汪可受)	四七四
440	水牛と馬 (牛犢)	四七四
441	陰罰陽報 (王大)	四七五
442	仏道の真面目 (桑仲)	四七九
443	牡丹と耐冬 (香玉)	四八四
444	洞穴での伝授 (三仙)	四九〇
445	済南の難を免れた話 (鬼隸)	四九一
446	冥土の河浚え (王十)	四九二
447	さかさまの衆生 (大男)	四九五
448	漂流 譚 (外国人)	四九六
449	畜 生 道 (章公子)	四九六
450	石を愛する男 (石清虚)	五〇一
451	兄弟喧嘩 (曾友于)	五〇四
452	見掛け倒し (嘉平公子)	五〇九
卷 十 二		
453	石室にいた三人 (二班)	五二
454	車夫と狼 (車夫)	五三
455	乱仙の洒落 (乱仙)	五四
456	虎と読書人 (苗生)	五四
457	さそり商人 (蠅客)	五七
458	豚になった人妻 (杜小雷)	五七
459	狼の報恩 (毛大福)	五八
460	おかしな黒雲 (電神)	五九
461	誰もいなくなった時 (李八缸)	五〇
462	謎のお告げ (老竜缸戸)	五二
463	蛇の舌のごときもの (青城婦)	五三
464	ふくろうに笑われた知事たち (鴉鳥)	五三
465	井戸から出て来た瓶 (古瓶)	五五
466	冥土で家庭教師 (元少先生)	五六
467	無縁墓地から来た花嫁 (薛慰娘)	五七
468	湖辺の父 (田子成)	五〇

490	489	488	487	486	485	484	483	482	481	480	479	478	477	476	475	474	473	472	471	470	469
自慢の胆力(浙東生).....	犬も食わない豚の肉(秦檜).....	その子は誰の子(房文淑).....	乳房を恐れた名士(李象先).....	名 裁 判(新鄭訟).....	姑の姦通事件(太原獄).....	死を求めて天女を得る(錦瑟).....	生まれ変わり(李檀斯).....	天女譚降(粉蝶).....	張飛様の腕力(桓侯).....	流謫の竜女(綬針).....	疫病の鬼(韓方).....	官位のほしい人たち(公孫夏).....	果報の話二つ(果報).....	狐の贈り物(姫生).....	鳥の使者(鳥使).....	土が兎になる(土化兎).....	ささいな心掛け(劉全).....	月に登った三人(褚遂良).....	とんだ濡衣(周生).....	両手に花(寄生).....	合歡の木の女(王桂菴).....
五九	五八	五五	五四	五三	五三	五六	五五	五三	五九	五五	五四	五二	五〇	五七	五七	五四	五三	五三	五三	五三	五三

付 録

491	492	493	494
娘の仇討ち(博興女).....	官吏というに足りる人(二員官).....	乞食仙人(丐仙).....	美貌の女按摩(人妖).....
五九	五〇	五八	五五

(495)	(496)	(497)	(498)	(499)	(500)	(501)	(502)	(503)
便所の蛇(蟄蛇).....	ある武芸者(晋人).....	竜の子(竜).....	文才を認められて(愛才).....	恐るべき属吏(夢狼 付則二).....	十の貴重なこと(阿宝 付則 集癡類十).....	夢の通い路(猪嘴道人).....	光る石(張牧).....	ある女の心臓(波斯人).....
五八	五八	五八	五九	五九	五九	五九	五九	五九

あ	と	が	き
.....			
五九			

聊齋志異
下

常	松	増	蒲
石	枝	田	松
	茂		
茂	夫	涉	齡
	訳		作

卷 六 (承 前)

236 離散奇談 (乱離二則)

教師の劉芳輝は、都の人である。

妹が戴という生員と婚約していて、嫁入りする日も間近だった。おりから北方の兵が侵入して来たので、父や兄はか弱い女が荷物になるのを恐れ、花嫁衣裳を着せて戴の家へ送りどけることにとりきめた。ところが、身仕度がまだ終わらないうちに、乱兵がなだれこんで来て、父子はばらばらに逃げた。娘は牛象に拉致された。

数日起居を共にしても全く戯れる気振りがなかった。夜になると別の榻に寝かせ、飲み物や食べ物もたいそうぜいたくにもてなした。そこへまた、ひとりの青年をさらってきた。年のころは娘とおつつかつで、風采がたいそう優雅だった。牛象は青年に言った。

「わたしには子がないので、おまえに跡目を継がせたいが、どうだな？」

青年は言われるままに肯った。すると、今度は娘を指さして言った。「もし承知してくれるなら、いまからこれをおまえの嫁にしよう」

青年は喜んで、いいつけどおりにしたい、と願った。牛象はそこで榻をとともにさせたが、ふたりはむつまじくあつて天にものぼる心地だった。やがて寝ものがたりにめいめいが姓氏を名のと、青年こそ生員の戴だったのである。

陝西(省)の某公は、塩政の官に任ぜられたが、家族の者は任地に

ついていかなかった。

おりふし姜瓖の妾(119注)がおこり、故郷が攻め落とされて賊の巢になり、音信が絶えてしまった。その後乱が治まってから、人をもって家族を捜させたが、百里にわたってかまどの煙の影もなく、どこといって消息を聞けるような所がなかった。

たまたま公が復命のために都にはいったときのことである。妻を亡くした年輩の小者がいて、貧乏で後添いを娶れぬところから、公が、数金出してやって妻を買わせることにした。ちょうど大軍が凱旋してきたばかりで、とりこにした女の数は数えきれぬほど、その女たちに札をつけて市場で売るさまは、牛馬を売るとかわらなかった。そこで、小者は、金を持っていて女を選んだが、金の足りぬのがわかっていたので、若くて奇麗なのを求めようとはしなかった。と、女たちの中に端正で身奇麗にしている老女がいたので、贖って帰って来た。老女は寝台の上に坐り、しげしげと見て、

「そなたは某の小者ではないかえ？」

と言った。どうして知っているのかたずねると、

「そなたはわたしの息子の下でご用をしておいでなのだから、知らないはずがありますまい」

と言った。小者は大いに驚いて、いそいで公に告げた。公が見てみると、果して母だった。かくて公は痛哭し、金を倍にして小者に報いた。

小者は金がつぶりになったので、老女を娶るのを潔しとしなかった。そこで、年のころは三十あまり、容姿のずばぬけている女を見つけて買い取った。やがて、道を歩いていると、女が歩きながら男を見返って言った。

「あなたは某の小使いさんじゃなくて？」

小者はまたもや驚いてそのわけをたずねた。

「あなたはわたしの夫の下でご用をしておいでなのだから、知らないはずがないでしょ」

と言う。小者はますます驚き、案内して公に会わせた。公が見てみると、まさしく夫人だった。またまた悲しみに声を放って泣いた。一日のうちに母と妻とがそろってもどったので、その喜びははてしなかった。そこで、百金を出して小者のために美しい女を娶ってやったことだった。

思うに、さだめし公に大徳があったので、鬼神もそれに感応したものであろう。残念ながら、話をしてくれた人がその姓字を忘れてしまっていたが、秦(陝西省の地の異称)には知ってる者がいるかもしれぬ。

異史氏曰く――

炎峴の禍は玉石を分かつた、というが、まったくそのとおりだ。公の一門のごときは、かかる次第で再会し、血筋を伝えた。が、董思白の子孫には、わずかに孫ひとりしかなく、いまだに先祖の祭りを行なうことができぬのであって、これも朝政をあずかる者の責任である。なんとも悲しいことだ。

注

一 牛象 牛象章京といひ、満洲語で守備の意。清代の八旗(附注)の官名。兵三百人ごとに一隊を組織し、その長を牛象章京と呼んだ。漢名を佐領といふ。

二 炎峴の禍は玉石を分かつた。『崑崙之火』にもとづく語で、崑崙山の火は玉石を共に焼くといひ、善惡を選ばず人を殺してしまふ喩えに用いる。
三 董思白 名は其昌、字は元宰、思白は号。江蘇省松江府草亭鎮の人。明の万曆年間の進士で、硬骨のため浮沈があったが、熹宗(在位、一六二

一―二七)の時、南京礼部尚書(11注)を最後に致仕し、太子太保(太子の師範職)を贈られた。在職中に『神宗実録』を編み、著に『圓禪室隨筆』等がある。

(古瀬)

237 蛇へび 寺てら(蒙蛇もんじや)

泗水(山東省)の山中に、昔から禪寺があった。あたりには村とてなく、訪う人もめつたになかったが、そこに住んでいる道士がいた。寺には大蛇がたくさんいるという人がいたので、參觀客はますます遠ざかるのだった。

ひとりの青年が網で鷹をとり山へはいった。深くはいり過ぎてしまつて、泊まるところがなく、遠くに寺を見かけたので、そこへ駆け込んだ。道士は驚いて、

「どうやっておいでなすつた? よくまあ子供たちに見つからなかったものじゃて」

と言ひ、すぐにすわらせて、濃いかゆをもてなした。それをまだ食べきらぬうちに、太さが十抱えに余る大蛇がはいって来た。客に向かつて鎌首を昂げ、怒った目から稲妻がはしった。客は縮みあがった。道士は掌でその額を打ち、叱して、

「行け!」

と言つた。蛇は首をたれて東のへやにはいった。くねくねと波うたせることしばし、やつと体がおしまひになり、中でとろろを巻いたが、へやいっぱいだった。客はおぞけをふるひ、がくがくふるえた。道士は言つた。

「これは日ごろ飼っておるのでしてな、わたしがおれば大丈夫。気がかりなのは、客人がひとりで出会われることですよ」

客がやっとすわったとき、またぞろいびき蛇がはいって来た。前のよりやや小さく、ざっと五、六抱えほどだった。客を見るとはたと止まって、さっきと同様、稲妻がはしり舌を吐いた。道士がまた叱し、これも東のへやにはいっていった。へやには寝場所がなく、梁に半身巻きついたので、壁土が音たてて揺れ落ちた。客はますます肝を冷やし、夜つびで寝つかなかった。

朝早く起きて帰ろうとすると、道士が送ってくれた。へやの戸口を出て、塀の上や階段の下を見ると、蝨(ばち)の胸が大きく口の小さい器(き)や、錢(せん)ほどの太さの蛇が、てんではいずたり寝そべったりしていて、見知らぬ人間を見ると、みんな呑もうとするのだった。客はぎょっとして、道士の小脇(こわき)にくっついて行き、谷の入口まで送り出してもらって、やっと帰ったのだった。

私の郷里(山東省淄川縣)に中州(河南省の地の異称)に旅をした人がいて、蛇仏寺に泊まった。寺僧が夕餉を出してくれたが、肉の吸いものがすこぶるうまい。そして、その切り身がみな丸く、鶏の首にそっくりだった。不思議に思つて寺僧に、

「こんなに首をとったんじゃ、どのくらい鶏を殺しました?」

とたずねると、僧は言つた。

「これは蛇の切り身ですよ」

客は大いに驚き、門を出て吐いてしまったことだった。

やがて寝てから、胸のあたりでもそもそするものがある。手探りすると、蛇だった。跳ね起きて悲鳴をあげた。僧が起きて来て、

「これはいつものこと、驚くがものはありませんじゃ」

と言つた。そこで、灯で壁を照らしてみると、大小の蛇が壁いっぱい、榻の上も下もみなおなじだった。

翌日、僧は仏殿に招じ入れた。仏座の下に大きな井戸があつて、井戸の中に太さが大きな蠶(かい)どもある蛇がおり、首で井戸のへりを探りながらも外には出ぬのだった。灯をつけて見下ろすと、蛇の子や孫が何百万となく井戸の中に群がり住んでいた。僧が、

「昔、蛇が出て害をしたので、仏が上にすわつてお鎮めになり、その禍(わざ)がやっとおさまりましたのじゃ」

と言つたということである。

注

一 稲妻がはしり 原語は「睖睖」。睖という字は字典に見えない字で、何註は睖睖の誤りとする。睖睖は稲妻。

(古瀬)

238 雷 公(雷公)

亳州(安徽省)の平民の王從簡の母親が、へやにすわっているとき、たまたま小雨が降つて暗くなった。見ると、雷公がかなづちを持ち、翼を振るつてはいつて来る。肝をつぶし、とっさに便器の中の糞と尿をぶっつけた。雷公は汚穢にまみれ、刀や斧をくらったかのように、身を翻してさつと逃げようとした。が、懸命に翼をひろげてとびあがっても、飛んでゆくことができず、庭さきにひっくり返つて、牛そっくりの声でうなっていた。と、天上の雲がしだいに下がってきて、やおら軒すれすれになった。そして、雲の中からひいんと馬そっくりのいななきが、雷公と呼応しあつた。そのうちに、雨がにわかになら

のからだに降りそそぎ、汚物をすっかり洗い落としてしまうと、霹靂(へきれき)一声、飛び去ってしまったのである。

(古瀬)

239 縁結び観音(菱角)

胡大成は、楚(こ)（ここでは湖南省の地を指す）の人だった。

母が平素から仏を信心していた。成は塾の師匠について勉強していたが、その道が観音の祠(ほこら)を通っていたので、母は通りがかりに必ず立ち寄って叩頭するように言いつけていた。

ある日、祠に来たところ、子供をつれて中で遊んでいる少女がいた。髪がほどよく首をおおっていて、その風姿がめでやかだった。そのとき成は十四だったが、心をひかれて、姓氏(なまふ)をたずねた。女は笑顔で、「わたしは祠の西にいる焦(きよう)という絵かきの娘の菱角(りやうかく)よ。聞いてどうなさるの?」

と言った。成がおっかけて、

「お婿さんはある?」

とたずねると、女は赧(はか)らんで言った。

「いいえ」

「ぼくがきみのお婿さんになってもいい?」

と成が言うと、女は恥じらいながら、

「自分のままにはならないわ」

と言った。しかし、目をぱっちりあけて、成を上(うへ)に下にまじまじと見つめ、内心まんざらでもないようだった。そこで、成は祠を出た。女が追って来て速くの方から、

「崔爾誠(さいにじやう)ってかたが父の仲善(ちゆうぜん)だから、仲人(なこうど)にするときつとうまくいくわ」

と告げた。成は、

「わかった」

と言った。これで、賢さと情の深さにつまされ、ますます夢中になった。

帰って、母にありのまま心の願いをうちあけた。母は、この子しかなく、いつもさからうのを恐れていたから、さっそく崔にたのんで仲立ちをしてもらった。焦が結納に高望(こうぼう)みをするので、はなははなしにならなかつたのを、崔が成の立派な家柄とすぐれた才とを口が酸っぱくなるほど言いたてたため、焦はやつと承知したのだった。

成には伯父(おくう)があり、老いて子がなく、湖北で教職を授かっていた。妻が任地でみまかり、母が成をその葬式に駆けつけさせた。数ヵ月して帰ろうとした矢先に、今度は伯父が病氣になって、これまた亡くなった。そんなこんなで久しく滞在しているうちに、おりから賊の大軍が湖南をねじろにし、家との音信が絶えてしまった。成は民間に隠れ、ひとりぼっちでしょぼしょぼ暮らしていた。

ある日のこと、年のころ四十八、九の老女が、村の中を徘徊(はいかい)して、日が傾いても出て行かなかつた。そして、自分で、

「一家ばらばらになって帰る所がありませんから、身売(みうり)したいのです」

と言った。ある人がその値段をきくと、

「婢女(はにめ)になるのはいやだし、さりとて、人妻にもなりたくなし、ただ、わたしを母親にしてくれる人がいたら、値段にかまわず、そこへ行きます」

と言った。これを聞いた者はみな笑った。成が行って見てみると、